



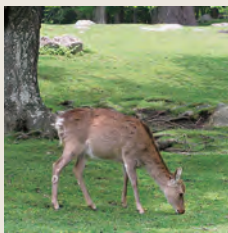
12:45 開場（東急ハーヴェストクラブ軽井沢&VIALA 日本料理 新樹）

13:00-14:50 「シカ問題に取り組んで思うこと」高槻成紀

15:00-16:00 野外観察（軽井沢タリアセンへ移動、小雨決行）
質疑応答、植物の鑑定・解説

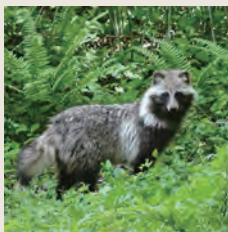
シカ問題に取り組んで思うこと 高槻成紀

私がシカの研究を始めたのは学生であった 1970 年代のことであるから、半世紀前ということになる。宮城県の金華山島でシカそのものでなく、植物への影響を調べることにした。初めに調べたのは群落の変化だったが、同時にシカの食性を調べた。場所により違いがあったが、シバ、アズマネザサ、ススキが重要で、共通してイネ科だった。その後、岩手県の五葉山で調査をした時も食性を調べたら、やはりイネ科のミヤコザサが重要だった。このササはおもしろい性質だった。



1990 年頃から日本各地でシカが増えてきた。シカ問題は農林業被害として浮上したが、すぐに自然植生への影響が明らかとなった。シカの影響は複雑で、植物を食べて減らすという直接影響だけでなく、その植物を食べる動物が減ったり、虫媒花が減って訪花昆虫が減るなどの間接的な影響もあり、さらには水生生物にまで波及することがわかってきた。一方、シカがいれば糞をするので糞虫が増えるし、死体も出るからシデムシ類も増える。

山梨県の乙女高原という 1700 メートルにある草原では 2010 年頃に美しい草原の植物（虫媒花）が減少してススキ原になった。そこでなぜ虫媒花が減ってススキが増えたかを解明した。それによって草原全体を柵囲いすることになり、継続調査したら 5 年目くらいからススキが減って虫媒花が回復し、訪花記録数が約 10 倍にもなった。



研究には終わりはなく、学生時代に持った興味をこの歳まで続けられるのはありがたいことだと思う。金華山で始めた糞分析は、カモシカ、タヌキ、アジアゾウ、モウコガゼルにまで展開している。

・・・ 糞は異なるもの味なもの

